

E-7 住宅の間取に関する研究（その1）

静岡英和女学院短大 前原 匡子

『住宅の間取』が含んでいる問題は余りにも多い。在来においては住宅の間取に関する研究は集合住宅・独立住宅の場合においても殆んど建築的視野に限られている。本論ではこの「住宅の間取」を人間生活の基本的場としての考え方をベースとして、間取に表現された問題を歴史の過程として把握し、その時代及び国に現われた風土・文化・生活水準（政治・経済・社会構造の変化）と、建築技術・材料の発展と変化及びそれに影響される住生活の現われ方に注目したい。

その方法として時を限定する必要がある。本小論ではその具体例として昭和43年度建設における関西の民間高層RC分譲住宅*の間取を採取した。（発表時スライドによる）いずれも中央暖房・冷房・給湯・車庫の完備したものを選択し、一戸当り平均価格 $1\text{m}^2=8\sim 11$ 万円の住宅に限った。上記の発生と要因及び実態と質に関する調査はすでに発表済み**なので省略する。集合住宅の新しい型として現われた具体例について各分野から検討し、考察したい。

* 昭和43年11月家政学会関西支部発表会—民間分譲住宅の実態とその値について（その1 高層RC造分譲住宅の発生とその要因）前原匡子

** 昭和44年5月同学会・同上（その2 関西における高層RC造分譲住宅の現状とその内容）前原匡子